

北陸学院同窓会々報

発行責任者
小崎 淳子

第 60 号
2021年7月



「讚美歌21」



会長 小崎 淳子

(小崎)
(39年度卒)

今年は何と早く季節が移ろうのかと思つほど時間の経つのが速く感じられます。

桜が満開で綺麗だと思つ間もなく、初夏の風が気持ちよく感じられたのもう梅雨です。今は新型コロナウイルスのワクチン接種で右往左往している昨今です。この暑さの中、私たちはまだマスクを手放せる状態ではありませんが、皆さまお元気で過ごしてしょうか。マスクをしているだけで脱水症状になることもあると聞いております。増してこの暑さです。お体には充分お気を付けください。

金沢も観光地である兼六園、長町武家屋敷、近江町市場など平常でしたら観光客で一杯の人出となるのですが、気が抜けたように静かなものです。

このコロナ感染の為に同窓会も昨年は総会が出来ず皆様にお手数をおかけしまして、行事計画案や役員案などを書面にて審議して頂きました。その結果、行事計画案はそのままその時々状態で対応する、役員案も現状の役員がそのまま継続することに賛同を頂きましたので、そのように進めさせて頂いております。

活動の一環であるバイブルクラスも今年度は三月、四月様子を見ながら短時間で行いました。久しぶりの出会いで皆さまとても喜ばれたのですが、お話も出来ず、早々にお別れとなつてしまいました。

クリスマス礼拝も平常でしたら五〇〇六〇人の皆さまと一緒にイエスキリストの降誕を祝つていたのですが、「密」になることを非常に懸念しまして、皆さまと一緒に祝つことは無理だと結論を出しました。それでもあきらめきれず、院長先生にお願いいたしまして、それぞれの家庭であひとりでも礼拝が守られます様に礼拝次第を作り、いつも参加なさつていらつしやる方に送りました。自粛のこんな場合です。とても喜ばれたのが救いでした。

同窓会創立二五周年記念事業も色々と考えていたのですが、この状態で集まることは無理だと思いましたが、それではと同窓会館の中を見直すことにしました。毎月バイブルクラスで使っている讚美歌がだいたい古いものだということがわかりました。現在学校、教会などで使われているものは「讚美歌21」だという事を知り、総会の折には必ず使用するので丁度良い大きさの讚美歌21を三〇冊購入しました。又、その讚美歌を保管する本箱も一緒に購入しました。下段の写真は新しい讚美歌21と今までの讚美歌が保管されている本箱です。

このコロナ禍の中、いつ讚美歌が歌えるかわかりませんが、早く終息を迎え、近いうちにぜひ手に取つて歌つて頂きたいと心より願つ次第です。



「変わる神」



学院長 楠本 史郎

旧約聖書の創世記六章から九章は、ノアの洪水物語です。人間が神に背きました。言いつけに従いませぬ。そこで神は怒ります。洪水を起すし、地上を洗い流して人を滅ぼします。

ただノアに、大きな箱舟を作させます。そこにノアと家族、あらゆる生き物の代表を乗せさせます。洪水から救います。

最後に、神は言われました。「人のゆえに地を呪うことはもう二度としない。人が心に計ることは、幼い時から悪いからだ。」『聖書協会共同訳』八章二節）不思議な言葉です。「人は悪かったが、悔い改めて良くなったので赦す」というのなら分かります。しかし「人は幼い時から悪い、だから滅ぼさないことにする」というのです。

これは、神が変わるという決心なされたという事です。「罪を怒り、人を滅ぼすことは、もうしない、これからは罪を赦す、人間を愛せよう」と決意されました。神が変わってくださったのです。

だから、後に御子イエス・キリストをお送りになります。人の罪を負わせて十字架に付け、私たちをお赦しになりました。主の十字架を見上げると、神が変わってくださったことが分かります。罪を赦しく罰する神から、罪ある者を愛し、赦す神へと変わってくださった。そのおかげで私たちは新しく生きることが出来ます。喜び、感謝して神に従います。

人に対して不満を抱き、怒るだけでは、相手は変わりません。まず自分が変わります。

人を裁くことを止め、受け入れます。赦し、愛します。すると、相手も変わっていきます。

新型「コロナ」ウィルス感染が広がりました。前のようにはいきません。行動は制限され、したいことも十分にはできません。感染の不安が心を縛ります。しかし神は必ず、救ってくださいます。この神を見上げ、私たちが変わります。現実を受け入れ、新しい生き方を求めます。すると、新しい世界が開かれます。その道を、一緒に進んでまいりましょう。

三月バイブルクラスより

「明るさと希望を携えて」



中学校・高等学校校長 堀岡 満喜子

同窓会の皆様、いかがお過ごしでしょうか。昨年度は総会を開くことができず、皆様にお会いすることができませんでしたが、卒業生に対して記念品を頂戴するなど変わらぬ母校への思いを届けていただき有難うございました。本校、神様に守られ、支えられて今もミッションの心に歩んでいます。

一年以上も経ちますと「コロナ禍」という言葉にもすっかり慣れ、学校も変更すること、中止すること、予定が立たないことに臨機応変に対応するのが普通のこととなりました。状況が人を育てるとい

ことは確かにあり、生徒たちも柔軟に対応する力がついているようです。

生徒たちについて喜んでいきますのは、中止や変更の相次ぐ中でも、明るさと希望を携えていることです。どうせタメなのだろうとびてくされたり、初めから小さく見積もることなく、最大限の可能性を信じています。これは、若い人たちの素晴らしい姿勢だと感じています。「先生、修学旅行は行けますか？行きたいです！」校長の権限に信頼してくれる生徒たちに応えたいのですが、何分、相手がウィルスですから思うようにはいきません。それでも、そんな生徒たちの健気な思いと日常を積み上げていこうとする姿勢に励まされながら、教職員一同、今年も礼拝から始まる学校生活を一日、一日と重ねていく所存です。

今年は、中学校四二名、高校三三八名の新生を迎えました。昨年発足しました中学校の野球部は二年目に入り、高校のフットサル同好会はフットサル部に昇格しました。狭い学校ですが、生徒たちと与えられた日々が大いに感謝しながら学校生活を楽しんでいきます。本校は、ずっと神の愛と恵みに支えられて歩んできました。今年も、さらにこの神の守りの中で感謝して進んでいこうと思っております。

同窓会の皆様には、毎年、本校の生徒たちに向けてお伝えいただき、ご支援いただいておりますことを心より感謝いたします。私たちも卒業生の皆様を覚えて、いつも、祈っております。



支部だより

関東支部



倉倉 尚美 (朝倉) S38年度卒

同窓会の皆様、いかがお過ごしでしょうか。今年こそは、同窓会を開催出来る事を願い、早々に日時、会場までは決めていたのですが、国内外の感染状況を鑑みだとき、開催は厳しいとの判断をいたしました。二〇二一年度 北陸学院同窓会関東支部会中止といたしました。本日に残念な思いでした。

お会いして言葉を交わすことは出来なくても、皆様と繋がることのできる方法はないかと相談し、近況報告、思い出などを会報に載せることにしました。ひと時、ともに学んだ友達を、教えていただいた先生たちを、そして同窓会を思い出していただけにと、願い企画しました。今回は、紙面の都合上、全員にお願ひすることは出来ませんでした。同窓生、先生方の近況報告、「コロナ禍にあっても工夫しながらお元気でお過ごし」の報告に、私達の方が元気をいただきました。今回は「同窓会を盛り抗闘マスクケース」を作成し、会報と一緒に同封しました。

今後、会を継続していくためにはどのような進め方があるのか、会としての課題です。今は、「コロナ」感染の終息を切に願ひ、希望を持って待ちたいと思ひます。今年度もよろしくお願ひいたします。

支部「会報」から一部の近状を抜粋しました。自粛下での閉塞感はあるものの、時間的に余裕が出来たのか、仕事も趣味も勉強も楽しむ元気がいっぱい、感謝の毎日です。

久保田 ゆずり (井上) S59年度卒
「コロナ禍で車通勤するようになり約一年。久し振りに電車を使うと駅の階段で疲れてしまつ程、運動不足に。できるだけ体を動かすよう心がけています。

中 礼子 (安岡) S59年度卒
現在ニカ所で働いていて週三日、バス通勤をしています。最近知り合いの歌手の手伝いを案内状の作成やSNS投稿等、楽しく日々を過ごしています。

本江 理恵 S68年度卒

関西支部



中村 彩子 S55年度卒

二〇二〇年四月、大阪には「緊急事態宣言」が発令されました。入学式をはじめ、様々な学校行事や多くのイベントが中止となり、職場においては在宅勤務を余儀なくされました。

それから一年、一度は明るい兆しが見えたかと思われましたが、この原稿を書いている今、二度目の「緊急事態宣言」が発令されようとしています。

「外出自粛」「三密の回避」と、制約のある生活に誰もが窮屈な思いを強いられた一年でありました。しかしそんな中、嬉しくなることもありました。

東海支部



八木 寿満子 (西村) S37年度卒

ふつやく冬眠から覚めた思いで友達に声をかけ、まず「千里の道も一歩から」と踏み出した途端の「コロナ緊急事態宣言」でした。自粛自粛の毎日、「今を生きる」と言う切迫した状況の中では、何一つ行動することが出来ませんでした。

活動も入この「コミュニケーション」により生ずる事だと思ひます、お顔を拝見できる意思の疎通を試みておりましたが、思う様にはならず、この「コロナ」禍が落ち着きましたら一歩踏み出そうと思っております。

「FACE TO FACE」はソックリなければ罪は開けてもらえませぬね。「コロナ」ワクチンを接種して足踏み状態を脱却しつつあります。

東海支部の方々にあ目に掛かれるのを楽しみにしております。

「人との出会いは宝物」

桑江 はるみ
(新潟)
(S38年度卒)

大阪から自然豊かな津幡町に住んで二〇〇年が過ぎました。大阪では義母の介護の為、私と子供だけが大阪で暮らしました。夫は金沢での仕事でした。義母を見送ってから、森林公園があるこの町に住むことにしました。

夫は歴史に興味があり、私は津幡の民話を紹介するボランティアガイドを夫婦でしています。今コロナ禍で施設訪問は中止ですが、サロンでは夫が二胡とハーモニカ演奏と町の歴史の話、私は昔話と紙芝居などをします。

「コロナ禍の中で参加した方が喜んでくださるのがなにより嬉しいことです。夫との出会いは私が二〇歳の時に、金沢長町教会の青年会で、もう五年になります。義母の介護で一二年間大阪と金沢と離れていた時期があったからこそ、今の生活を大切にしています。」

夫の退職後に津幡の山里で二〇坪の土地を借りて畑をしています。夫はコロナ禍には畑作



業が一番安心と言って野菜を育て友人たちに送っています。畑は夫婦の健康の源です。

一〇年前の東北の震災があった時、テレビで観た岩手県広田町の方と宮城県南三陸町の方々に夫の手作りの蕪ずしと野菜を送りました。最初は驚かれましたが喜んでくださり、今も交流が続いています。避難されている福島の方とも出会い、布絵で原発の危険を伝えておられる素敵な方です。

いろんな方との出会いを通して学ぶことが多く、若い時に北陸学院で学んだことが土台になっていますと実感して感謝の思いで過ごしております。

「コロナ禍で神さまと向き合おう」

川上 裕美
(奥)
(S48年度卒)

弱った手に力を込め よろめく膝を強くぐせよ。心おのく人々に言え。「雄々しくあれ、恐れぬな。見よ、あなたたちの神を。」

「コロナ禍の長期化で、様々な場所で様々な方々が生活の変化や不自由を強いられていることでしょう。」

私は日本を離れ香港に住み、三年になります。香港の感染対策と言えは日本よりも徹底し、ほぼ一年間幼稚園や学校はオンラインに変わり、公共施設（体育館や図書館など）はすべてクローズ、レストランでの会食も一人までという多くの

たちの顔を見せに金沢を訪れました。

『あたりまえ』があたりまえではないのだということを、強く感じた一年でした。

『いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。』

テサロニケ一五：一六―一八

これは私の愛唱聖句ですが、この一年は特に思い出されました。日常の小さな小さなことでも、喜び、幸せだと感じました。家族と一緒に健康で過ごせる事、仕事を与えられている事、すべての事に感謝です。以前の日常に戻って行くには、まだまだ時間がかかりそうですが、私たちの創り主、全能の父なる神さまにより頼み、祈りつつ過ごしていきたいと思えます。

「コロナ禍での新たな命」

藤野 真嗣
藤野 夢子
(塚本)
(H20年度卒)

私たちは北陸学院中学校が初めて男女共学となった二〇〇三年に、共に中学校に入学し、二〇〇九年に高校を卒業しました。その後それぞれ東京・大阪で進学・就職をしましたが、五年ほど前に金沢へ戻り、縁があり結婚しました。そして昨年末、第一子に恵まれ現在子育てに励んでおります。

今回は「コロナ禍での近況についてお話しさせていただきます」と思っています。昨年五月に妊娠が判明した頃には日本全国で緊急事態宣言が発出されており、解除後も毎月の健診や出産・入院時



規制がつい最近までありました。お店に入るときは検温・手指の消毒は必ず行い、最近では入店時QRコードでの登録が義務付けられています。教会も会堂での礼拝は許されずオンライン礼拝でしたが、やっと今年のイースターから会堂で礼拝を捧げることができました。ここ最近の感染者と言えは一〇人前後ですが政府はなかなか規制を緩めることはしません。日本の緩さに感染拡大を防げるのか疑問を大きく感じます。

私にとって何よりも困ったのは、香港と日本との移動でした。年離れた母を金沢に残しているため、帰国しないわけには行かず、様々な規制を覚悟で一時帰国して参りました。この水際対策が日本と香港と大きく違い日本の甘さを痛感いたしました。両国を経験し、日本も入国後二四日間の待機、公共の交通機関を使用しないなど規制がありますが自覚のみで全く自由の身。香港に戻る時は二日間強制検疫で、ホテル隔離です。それも自費(手にリストバンド)GPSでの監視(着けられ、部屋から一歩も出ることは許されず、孤独との戦いでした。ある日神と向き合い祈るとき、このイザヤ書に強められました。

世界各国、世界中の人々が「コロナ」の終息を願っていると思いますが、これからの生活が元に戻ることも終止符が打たれることも難しいでしょう。ウイルスはどんどん変異し、私たちの戦いはまだまだ続きそうですが、不安や苦境困難なことこそキリストが私たちに働きかけてくれていることを忘れず、信頼していきたいと思えます。

などあらゆる場面において妊婦以外は一切立ち入りすることが禁止されてきました。そんな中において、たくさんの方々の支えと祈りの中で無事出産できたことをとても感謝しています。今回、「コロナ禍での妊娠・出産・子育てをする中で、不安や悩みも多くありましたが、「ステイホーム」の時間が増えたことで、夫婦や家族の中で様々なことについて話し合う機会に恵まれたことは幸いです。また、友人ともなかなか直接会えない状況が続くのは残念でしたが、SNSやビデオ通話等いつでも連絡をとれたことも励みになりました。

これまで経験したことのない状況になって、今まで当たり前のように感じていた、家族や友人の存在の大きさを、ささやかな日常の大切さに改めて気付かされました。

先日、子どもを連れて、久しぶりに飛梅の北陸学院キャンパスを訪ねました。私たちが当時お世話になった先生方にご挨拶でき、とても嬉しかったです。ミッションでの学びや思い出は今でもかけがえのない大切な心の糧です。これからもミッションで学んだ一人であることを誇りに思い、今後我が子にも伝えていきたいと思えます。

「コロナ禍の早い終息と皆様のご健康を切に祈っております。近い将来マスクなしでまた皆様の笑顔を見られる日を待ち望んでいます。」



“卒業生はいま…” コロナ禍の中で

「感謝」

佐渡 和美
(吉田)
(H38年度卒)

主の御名を賛美いたします。

思い出深い栄光館の解体前に行われた感謝礼拝に伺わせて頂いて以来しばらくご無沙汰しておりますが、また伺いたいなと思っております。長女がバスケットボールを始めたのをきっかけに、近年の北陸学院高校男子バスケット部の全国大会出場などの活躍を知り、試合を観て応援しています。

さて、新型コロナウィルス感染拡大により、皆様の日常生活でも様々な変化があったかと思えます。我が家も小学生の次男は自宅学習、高校生の長男と長女はすぐにオンライン授業となり、自宅で過ごすストレス多い日々が続きました。鬱にならないかと心配になり、晴れた日は家の前で日光浴をしたり、外の空気を吸って気分転換させたりしました。

学校再開を子供たちは喜び、学校に行けることがどんなにありがたいことを親子共々に実感しました。心配していた次男の小学校卒業式、中学校入学式も予定通り執り行われホッとしてました。

私の職場は高齢者の長期療養病床のある病院のため、富山県の緊急事態宣言を受けて、面会制限し、検温やマスク着用の確認等通常業務も変化しました。県をまたいでの移動が難しくなり、両親の様子も気になりながら実家への帰省を自粛していましたが、一年三ヶ月ぶりに、孫

北陸学院同窓会第126回総会、並びに バザーの中止について

今年の第126回総会は昨年に引き続きまして、中止とさせていただきます。

5月に金沢でも非常事態宣言が出ました。ワクチンも追いつかない状態の中で総会を開催するということは非常に危険を伴うことと判断しまして、止むを得ず中止という決断をいたしました。

また、このような状態では活動が出来ませんので、昨年と同様にその時々で状態に対応していきたいと思っておりますので、その旨ご了承くださいませお願いいたします。

又、例年ミッション祭に合わせて開催しておりましたバザーも「密」を伴いますので中止といたします。

また、バザーに関しましては改めて協議し、ご案内したいと思っております。

おつかれさまでした

2019年度、2020年度の2年間にわたり、バザーの開催にお心を砕いて頂きました当番学年（S55年度卒）の皆様には大変お手数をおかけいたしました。今年度ももちましてバザー当番の任を解かせていただきます。本当に有難うございました。



いつものバザーのご案内

お会いできる日を
まっています。



第122回総会風景（再び開催出来ることを願っております）